

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	15H05774	研究期間	平成27年度～平成31年度
研究課題名	TGF- β シグナルによる転写調節とがん悪性化機構	研究代表者 (所属・職) (平成30年3月現在)	宮園 浩平 (東京大学・大学院医学系研究科・教授)

【平成30年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
○	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、TGF- β (Transforming Growth Factor- β : トランスフォーミング増殖因子- β) を起点とした転写調節機構、EMT (Epithelial-Mesenchymal Transition : 上皮間葉移行) 調節機構、がんの浸潤・転移促進機構といった3課題を一体として解析することを目的としている。

これまでに TGF- β 依存的な腫瘍促進に関わる重要な発見を成し遂げ、国際学術雑誌にもその研究成果が報告されるなど、研究は期待以上に進展している。特に、新たなプロジェクトとして追加された UCSF (University of California, San Francisco) との共同研究による長期 TGF- β 曝露時の活性化シグナル解析や、東京大学との共同研究による組織透明化技術を用いた *in vivo* での TGF- β 依存的な転移機構解析は、当初の想定以上の研究進展につながっており、得られた研究成果は高く評価できる。